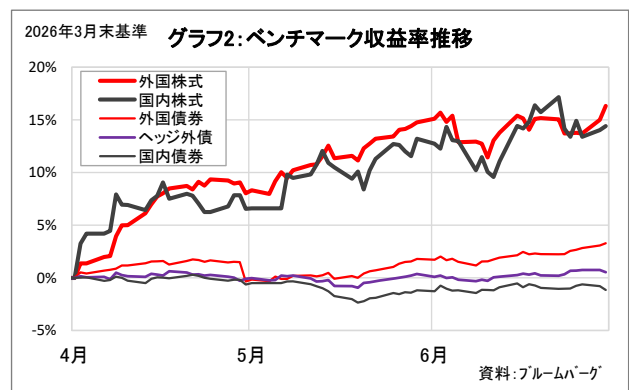
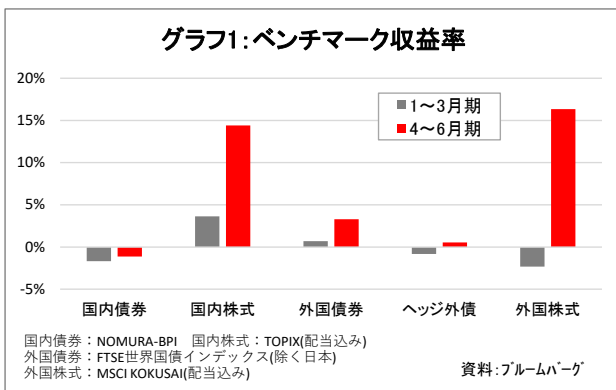


## 2026年度第1四半期の市場動向と今後の注目点

### 1. ベンチマークの推移 ～内外株が大幅上昇

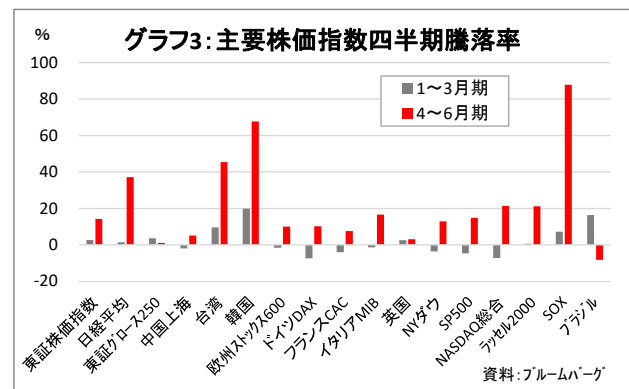
4～6月期は内外株が大幅に上昇しました。国内株式の収益率は14%台、外国株式は16%台と2026年度は「ロケットスタート」となりました。一方で国内債券は前四半期に続き長期金利が上昇したため1%あまりのマイナス、外国債券は円安に後押しされ3%台のプラス、ヘッジ外債は僅かながらプラスで終わりました。



### 2. 各市場の動き

#### ① 株式市場～テクノロジー関連が大幅上昇

グローバルでの株価上昇はテクノロジー関連が牽引しました。日本ではテック比率の高い日経平均が東証株価指数を凌駕し、東アジアでは半導体関連で競争力を誇る韓国、台湾株が大幅上昇、米国半導体指数は四半期で90%近く上昇しました。テクノロジー関連に後れを取ったとは言え、欧州ス톡ス600指数は10%程度上昇、ニューヨークダウやS&P500指数も2桁の伸び、NASDAQ総合指数は20%以上値を上げました。

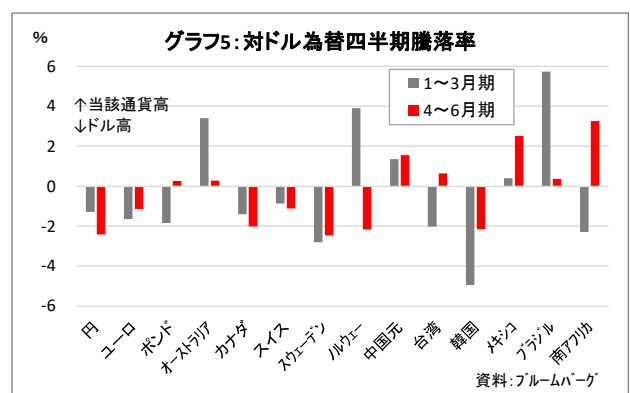
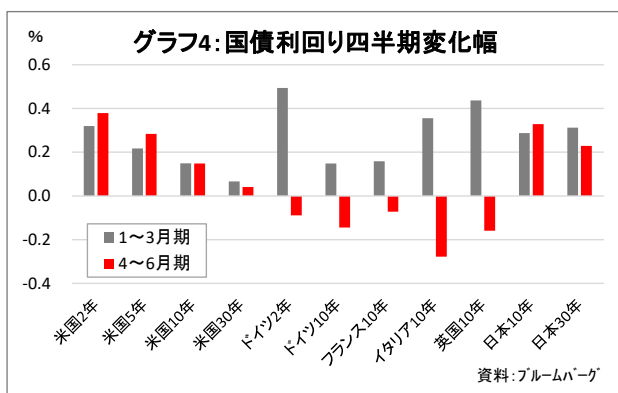


② 債券市場（長期金利）～日米長期金利が上昇

AI 関連投資等に支えられた好調な米国経済とイラン攻撃に伴う原油価格上昇等から米国の利下げ期待は剥落、利上げ懸念も浮上し米国金利は短期ゾーン主導で上昇しました。日本では高市政権による積極財政への期待や、財政赤字拡大懸念から長期金利の上昇が継続しました。欧州長期金利は中期ゾーンを中心にやや低下しました。

③ 為替市場～円、欧州通貨ではドル高

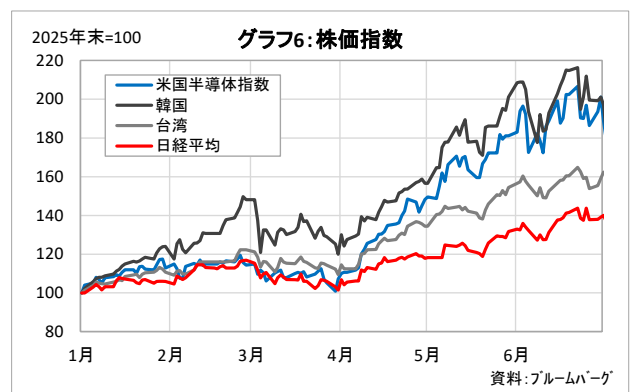
前四半期に続きドルは堅調に推移、ドル円は 162 円台と 1986 年 12 月以来となる円安水準で四半期を終えました。もっともユーロやその他欧州通貨も対ドルでは下落しました。中国元は堅調地合いが持続、その他新興国通貨はまちまちの動きとなりました。



3. 主な出来事

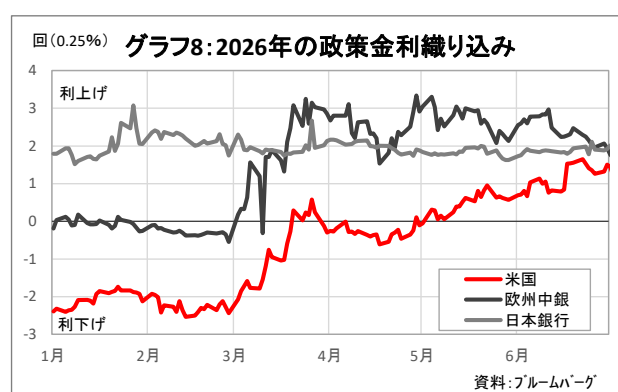
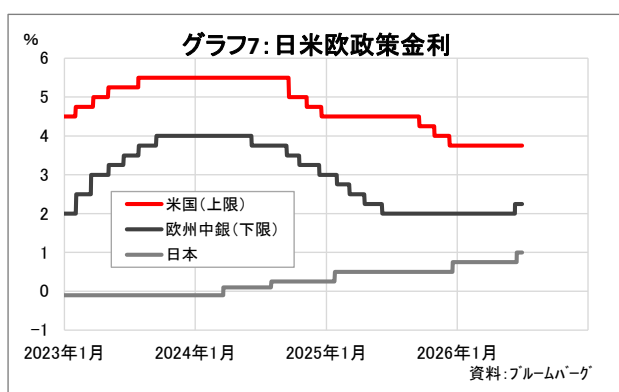
① テック関連株の上昇が加速

4月初めからテクノロジー関連株価の上昇に拍車がかかりました。イラン情勢への懸念をよそにこれまでの生成 AI の普及に加え AI エージェントやフィジカル AI 等、新たなステージへの期待が膨らみデータセンター等への需要が急激に拡大したことが背景と思われます。これまでの「マグニフィセント7」と言われた銘柄が伸び悩む一方でメモリー半導体等、新たな主役が登場し市場を牽引しました。半導体の部材、部品は日本企業が得意とする分野でもあり、当該銘柄の比重の高い日経平均も大幅に上昇しました。



## ② 金融政策決定会合関連

米国は4、6月会合とも政策金利を据え置き、日本銀行と欧州中央銀行はいずれも4月は据え置いたものの6月会合で0.25%の利上げに動きました。日本は昨年12月会合以来、欧州は2023年9月会合以来の利上げとなります。先物市場では3月初めの時点で米国の利下げを2回半（1回=0.25%）ほど織り込んでいましたが、イラン攻撃後の原油価格上昇で4月初めには利下げ織り込みは剥落、6月末の時点では年内1回半くらいの利上げを織り込みました。欧州中銀の利上げ織り込みは一時3回まで拡大しましたが、6月末時点では既に実施した1回を含み年内2回に後退しました。日本は年初からの2回の利上げ織り込みに概ね変化はなく、6月に続き年末まであと1回の追加利上げをみています。



## ③ イラン関連

言うまでもなく2月末に始まった米国、イスラエルによるイラン攻撃の行方が市場の焦点となりました。イランがホルムズ海峡封鎖に動く一方で米国は4月半ばに「逆封鎖」し緊張が高まる局面もみられました。トランプ大統領は交渉の行方について楽観的な発言を繰り返しながらも、イスラエルがレバノンへの攻撃を継続し交渉は難航しましたが、6月半ばにMOU（基本合意書）の署名に漕ぎつけました。原油価格は4月初めから乱高下を繰り返した後、6月末にかけ大幅に下落しました。もっとも今後の交渉については不透明な点が多く今後とも市場の不安材料となりそうです。



## ④ その他

パウエルFRB議長が5月半ばで任期を迎え、トランプ大統領に指名されたウォーシュ氏が新議長に就任しました。トランプ大統領は利下げ要求に応じないパウエル前議長を激しく批判しましたが、パウエル氏は議長退任後も理事として残るという極めて異例な事態に発展しました。

イーロン・マスク氏率いるスペースXが6月にNASDAQ市場に上場し、いきなり時価総額上位にランクインしました。今後、AI関連企業の大型上場も想定されます。

---

#### 4. 7～9 月期の注目点

##### ① AI 期待から上昇に拍車がかかったテクノロジー関連株価の行方

2 ページのグラフ 6 のようにテクノロジー関連株価は 4 月から急上昇していますが、6 月以降は激しく乱高下する「高値波乱」の様相を呈しています。AI 関連銘柄は業績の急拡大が予想され、株価急上昇にもバブルではないという見方が有力です。しかしながら大型設備投資の収益性に対する懸念等が浮上しても不思議ではありません。

##### ② 高市政権の経済政策と円為替、円金利の動向

高市政権の積極財政を好感し株価は上昇していますが、その一方で円安が継続し、日本の長期金利上昇が継続しています。一部では日本銀行への圧力から利上げが遅れるのではないかという見方もあります。円安や金利上昇の更なる加速は実体経済はもちろんのこと、株価にも悪影響をあたえかねず注意して見守りたいと思います。もちろん消費税減税の成否やその財源も焦点となりそうです。

##### ③ ウォーシュ FRB 新議長の手腕

物価安定を最優先する姿勢を明確に打ち出していますが、トランプ大統領は引き続き利下げを期待しているとみられます。とりあえず 5 つの部会を立ち上げ早ければ秋、遅くとも年末までに結論を出すとしています。11 月の中間選挙まではよほどのことがない限り政策金利を据え置くとみまます。

##### ④ その他

イラン関連、中東情勢は引き続き金融市場でも大きなテーマとなりそうです。米国政治では 11 月の中間選挙を控え予備選挙や政党支持率に注目したいと思います。英国ではスターマー首相が辞意を表明、バーナム氏が次期首相に就任するとみられ動向が注目されます。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2026年5月以降のレポート

- 5月 1日号 4月の市場動向と5月の注目点
- 5月 15日号 AI、テクノロジー関連が日米株価を押し上げ
- 5月 22日号 長期金利上昇の背景
- 6月 1日号 5月の市場動向と6月の注目点
- 6月 19日号 日米金融政策決定会合は予想通りの結果に
- 6月 24日号 アジア通貨安、政策金利、そして株価
- 7月 1日号 6月の市場動向と7月の注目点

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者  
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人資産運用業協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号  
電話 03 - 4223 - 3145

\*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

\*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

\*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。